

令和5年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（最終）

令和6年2月

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

学校教育目標		中・長期的目標	
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。 	
今年度の重点目標	分掌	評価	今後の課題・改善策等
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。 	1学年	B	長期休業明けより指導対象となるものが複数出てきた。全体への注意喚起と個別指導を継続し、根気よく声掛けを行っていく。
	2学年	B	多くの生徒は目標に向けて意欲をもって取り組んでいるが、当事者意識の低い生徒に対して引き続き指導の手を緩めずに丁寧に寄り添いながら継続指導していく。
	3学年	B	・感染対策をおこなった上で工夫しながら学校行事に取り組んでくれた。文化祭、クラスマッチ、合唱コンクール等において、最高学年としての自覚をもって取り組むことができた。
	生徒指導	B	生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。身だしなみについては粘り強い指導の継続と冬季期間の防寒対策の検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> 自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。 	1学年	B	生徒一人一台パソコンの導入とビジネス探究プログラムの実施に伴い、グループ協議を含む多様な取組みを実施できた。継続して、より良いものを模索していく。
	2学年	B	昨年度より取り組んでいる「地域人プロジェクト」の集大成ともいえる研修旅行を終え、2月9日に小泉市長と山下教育長へのプレゼン(報告会・まちづくりの提案)を実施。多くの大人と関わり、アイデアを発信していくことが今後の課題と捉える。
	3学年	B	・生徒それぞれが自分の進路の実現に向けて取り組むことができたが、進路決定後の気の緩みが生活態度に現れてしまう生徒もいたため、指導を続けた。
	進路指導	B	様々な進路行事やキャリア教育イベントを開催し、生徒が視野を広げる場を提供した。今後も生徒が積極的な取り組みができる環境づくりを引き続き心がけていくとともに、ビジネス探究プログラムや校内での各種活動をどのように活用していくかを検討を続けていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。 	商業科	A	小高連携やデュアル実習、ビジネス探究プログラム、各企業、学校との連携事業において、当初の計画通りに実施ができた。今後もより一層探究的な学びを推進するために、商業科目の授業内容を見直し、探究的な学びへ転換していきたい。
	生徒会	B	積極的に地域と連携して行う活動を増やすことができた。小諸市商工会、市役所、小諸高校生徒会と共に協力しイベントに参加し貢献することができた。また、JRC部からの依頼で市のボランティア活動にも参加した。
<ul style="list-style-type: none"> 学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。 	ICT	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、教員ともにICT活用スキルが向上している。 GIGAスクールサポーターによる個別研修を行った。 今後は、生徒学習用端末の充電忘れなどの課題への対応、Edtechの活用などに取り組みたい。
	教務	B	計画一斉オンライン授業に併せて、職員研修会を行った。また、全職員にICT端末を配布した。本年度、エドテック事業でモノグサを導入し、授業で活用している。体験入学や教員向け入試説明会ではオンライン配信を併用して実施した。
	生徒会	B	昨年度までの知識をもとに更に発展させてICT機器の使用を積極的に行った。リモートでのデメリットなど反省点はあるが、徐々に慣れてきている。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。 	1学年	B	友人関係の築き方やコミュニケーションの取り方でつまづく生徒がみられる。個々の状況に応じて丁寧な対応をしていく。学年集会での呼びかけ、生徒相談係との連携などから安心安全な環境をつくっていきたい。
	2学年	B	友人関係の築き方、コミュニケーションの取り方などで悩みを抱える生徒が存在する。個々の状況を踏まえ、丁寧な相談・指導を継続していく。
	3学年	B	・学年集会や学級などで呼び掛けてきた。生徒からの相談に対しては関係職員と協力しながら対応できた。
	人権平和	B	・SNSによる誹謗中傷や差別事象を人権学習の機会と捉え、全校人権教育の講演などで取り扱い、注意喚起を図った。今後は、生徒相談係と連携した取り組みを考えていきたい。
	生徒相談	B	今後もしじめ悩みアンケートやアセスを実施し、今後を活用する。